



# Watching “Kabuki” with international students!

外国語学部 英語英文学科 3年 伊藤 薫

2017年12月3日から26日にかけて、東京  
国立劇場で「隅田春妓女容性（すだのはるげい  
しゃかたぎ）」の歌舞伎公演が開催された。12月

16日、当大学 英語英文学科の郷 健治教授のゼ  
ミナールの生徒一同と当大学の4名の留学生も

この公演を観劇した。郷 健治教授のゼミナール  
ではイギリスの劇作家であるウィリアム・シェ  
イクスピアを専門に研究しており、今回、日本

の伝統芸能の一つである歌舞伎を観劇出来た事  
は今後のシェイクスピアの研究の大きな糧とな  
るものであった。4時間半の公演時間の中で、

生徒は皆それぞれ、自分たちが思う歌舞伎の面  
白さを発見したようであった。歌舞伎公演の終

了後、留学生のマチエック、マニラ、マディタ、  
ゾフィーの4名に、日本の歌舞伎についてどう  
思うかについてインタビューを行った。インタ  
ビューは郷 健治教授のゼミナールの数少ない  
貴重な男子学生の中から選ばれた4名が行つた。

留学生「歌舞伎を観る前、歌舞伎についてどん  
なイメージを持っていた?」

—マディタ「歌舞伎は、男の人（男形）だけ  
がやるもの」  
—ゾフィー「マイクが濃い！」

留学生「歌舞伎の内容の方はどうだった?」  
—ゾフィー、「よく分からなかつた！……（笑）」

## ・歌舞伎のイメージについて

留学生「歌舞伎を観る前、歌舞伎についてどん  
なイメージを持っていた?」

—マディタ「歌舞伎は、男の人（男形）だけ  
がやるもの」  
—ゾフィー「マイクが濃い！」

## ・歌舞伎の内容について

留学生「歌舞伎の内容の方はどうだった?」  
—ゾフィー、「よく分からなかつた！……（笑）」

歌舞伎は男の人だけで、女形の存在は知らな  
かったと言う留学生。同じように思つてゐる海  
外の人は多いかも知れない。また、日本の着物  
は海外の人達にも受けが良いようであつた。

留学生は日本に来る前から歌舞伎を知つており、  
歌舞伎が日本文化として海外の人にも浸透して  
いる事が分かつた。

—マニラ「日本らしいもの」  
留学生「どういうところが？」

—ゾフィー「音楽とか……」

—マニラ「服装、着物についてどう思つた?」

—ゾフィー「キレイ！」

—マディタ「本当にキレイだつた」

—マニラ「キレイだつた」

留学生「日本に来る前から歌舞伎の存在は知つ  
てた？」

—ゾフィー「日本語の授業で知つたよ。日本  
の文化の一つとして」

## Watching “Kabuki” with international students!



マチェックさん

学生「俺もよく分からなかつた（笑）本当に（笑）だつて日本人あんな話し方しないじゃん（笑）俺らでも分からなかつたし、留学生は余計わからないよね（笑）」

学生「歌舞伎について何か思つた事ある？長かつたなーとか（笑）」

全員「長かつた！本当に長かつた！」

学生「（笑）。会場内暑くなかった？」

全員「暑かつた！（笑）もうめちゃくちゃ（笑）」

学生「違う演目の歌舞伎だったら、もう一回観たいと思う？」

全員「長かつた！本当に長かつた！」

学生「（笑）。会場内暑くなかった？」

一マディタ、「ん」（笑）

一マニラ「Y e s ! ! !」

学生「マチェックはもう一回観たいと思う？」

一マチェック「同じやつを？」

学生「違う演目のやつとか…」

一マチェック「観たいかもね」

学生「そうだよね。今回のやつは難しすぎたよね…」

学生「確かに。凄い良いコメント（笑）どういうところが一番印象に残つた？」

一マニラ「演者の話し方」

全員「笑」

学生「確かに。物語の内容自体は全く分からなかつた。だけど、物語に集中できなかつた分、その場の雰囲気や着物に集中する事で歌舞伎を楽しめたよ」

学生「確かに。凄い良いコメント（笑）どういうところが一番印象に残つた？」

一マニラ「演者の話し方」

全員「笑」

学生「あんな話し方する人は現代にいないもんね…。他の二人は？」

一マディタ、「最初のパート。三味線とかかつこよかつた。」

学生「雰囲気が良かつたってマチェック言つてたけど、皆どう思う？」

一マディタ「雰囲気？んー（笑）最初は良かつたけど、見てる内に…え？！まだ続くの？！みたいな（笑）長かつたわ（笑）」

一ゾフィー「長かつたし、動きも遅かつたよね（笑）」

学生「確かに（笑）」

海外の人にとって歌舞伎を理解する事は難しいようだ。実際、我々日本人でさえも完全に理解する事は中々難しいようと思われる。（特に今回の歌舞伎は内容自体が難しかつた）しかし、留学生は内容に集中できなかつた分、視覚的に



左からゾフィーさん、マディタさん、マニラさん

歌舞伎の面白さを発見したようだつた。彼らにとつて歌舞伎が非常に興味深いもので、もう一回観たいと思えるようなものだつたと言うのは間違いない。日本の伝統芸能をもう一度観たいと言つてもらえて嬉しい限りである。

### ・留学生のクリスマスの予定について

学生「皆、クリスマスの予定は？」

一マチエック「マニラから話し始めてよ！（笑）」

一全員「ふふ（笑）」

一マニラ「（笑）。マディタヒゾフィーと食べ

放題に行くよ。」

学生「あれ？ 男の子とどつか行くのかと思つてた（笑）」

一マニラ「次の日：ね」

一マディタヒゾフィー「ボーライフレンド！！！」

一マニラ「うん。彼氏と…」

学生「え！？ マニラ彼氏いんの？！歌舞伎の

話より聞きたいかも（笑）」

一マニラ「ちよつと前に…（笑）」

学生「他の二人は？」

一マディタヒゾフィー「ノーロマンス！」

学生「リトルビットロマンスも無いの？」

一全員「（笑）」

学生「あれ、通じない…。（笑） ホントに…



左：Feiさん、右：Madiyaさん

てでも日本の文化を感じることが出来る。留学生は、日々、充実した生活を送っているようを感じた。

今回のインタビューを通して、日本の伝統芸能の歌舞伎と言うものが海外の人にはどう受け止められるかを知る事が出来た。歌舞伎の演技、所作、三味線そして着物。留学生はそのどれに対しても「日本らしさ」と言うものを感じたようだ。歌舞伎には日本の文化が凝縮されており、日本文化の縮図とも言える伝統芸能なのだ。今回、留学生と共に歌舞伎を観る事が出来た事は本当に良い機会であり、歌舞伎を通して日本の文化を知つてもらえる事が出来て本当に良かつたと思う。そして、我々も今回の歌舞伎の観劇を通して、日本の文化を再確認する事が出来た。この記事を読んでいる方々も、もし日本に来た海外の人と交流する機会があつたら、歌舞伎を観劇する事を是非勧めていただきたいと思う。

最後に、マニラ、マディタ、マチエック、ゾフィーの4名の留学生の方々へ。インタビューに協力してくださつてありがとうございました。

歌舞伎のインタビューの間に、留学生のクリスマス事情も聞くことが出来た。留学生は勉学に努めながらも、日本での生活も楽しんでいるようだ。勉強、遊び、そして恋愛。どれを通し